

始めませんか 社会奉仕

ボランティア特集

多数の死者や家屋損壊など大きな被害をもたらした阪神・淡路大震災から20年。あの大災害をきっかけに、一般市民のボランティア活動が盛んになり、わが国でのボランティアの在り方が変わってきた。特別な人だけでなく、誰でもができる社会奉仕。糸島地区でも、さまざまな団体が活動を行っている。そんな中から、子どもたちに夢を与え続けている団体を紹介する。

ごみ拾い、街頭募金：

気軽にできる活動紹介

あなたもボランティアアをしませんかー糸島市NPO・ボランティア



ボランティア活動を支援している「こうほ糸島」

「こうほ糸島通信」2014年冬号で、家族や友人と気軽にできるボランティアを紹介している。

「ボランティアは

最初の第一歩」と題し、親や家族でできるボランティアとして▽散歩のとき、ゴミ袋1枚持ち歩いてゴミ拾い▽盲導犬になる子犬を育てる▽外国の人との交流一を挙げている。

忙しくてもできるボランティアとして▽使用済み切手、書き損じはがき、使用済みフリペイドカードなどの収集▽街頭募金、ネット募金などで活動団体に

寄付▽ボランティア団体の販売作品などの購入一を紹介している。初めてでも気軽にできるボランティアとして、イベント当日現場での清掃活動などを挙げている。

同センターによると、現在、市内には保健や医療、福祉、社会教育、まちづくりなど約180のボランティア団体があり、活動している。

子どもの笑顔が生きがい

おもちゃ病院伊都国

黄色のエプロンにバの病院のような光景に、訪れた子どもたちは大喜びだ。

おもちゃ病院を開い

おもちゃ病院伊都国ではナースが受付し、奥でドクターが診察、治療(修理)する。

修理が終わると、その内容をカルテとして、子どもに渡す。重症の場合は入院することもある。まるで、本当

(以下別紙)

子どもの笑顔が生きがい

おもちゃ病院伊都国

黄色のエプロンにパンタナのナースが、お出迎え―糸島市前原東の市子育て支援センターすくすくで毎月第4土曜日に開院する、おもちゃ病院伊都国ではナースが受付し、奥でドクターが診察、治療(修理)する。

修理が終わると、その内容をカルテとして、子どもに渡す。重症の場合は入院することもある。まるで、本

の病院のような光景に、訪れた子どもたちは大喜びだ。

おもちゃ病院を開いているのは、ボランティア団体・おもちゃ病院伊都国(波多江保彦代表、24人)。電機メーカーの技術者として、商品開発などを担当していた波多江さんが故郷に帰り、長年培った技術を生かそうと仲間

に呼び掛け、2007年に発足した。当初4人だった会員も男性18人、女性6人の24人に増えた。電機、機械、木工などそれぞれの得意分野を生かし、さまざまなおもちゃの修理に取り組んでいる。女性は受付をはじめ、縫いぐるみの針仕事などを担当している。

病院は、壊れたおもちゃやオルゴールなど思い出の品を子どもの目の前で修理するのを基本にしている。修理の様子を見せることによつて、子どもたちにおもちゃに対する愛着をもってもらい、物をたいせつにする心をはぐくんではほしいとの願いからだ。

おもちゃの修理だけではなく、市内の小学校で、おもちゃ修理の体験学習も支援している。児童が自宅から持ち寄ったおもちゃを自ら修理するよう会員が指導している。

さらに、すくすくと、市NPO・ボランティアセンターこらほ糸島(同市前原中央)に、「おもちゃ箱」を設置し、壊れて家庭で眠っているおもちゃを集めて、

点検修理し、育児施設や福祉施設に寄贈するなど幅広い活動を行っている。



おもちゃの修理に取り組む会員たち